

もっと わかり合いたい女^{おんな}と男^{おとこ}～相手の大切なものも大切に～

基調講演

衆議院議員 猪口 邦子 氏

「少子化・男女共同参画担当大臣としての日々」

少子化問題がこのまま進むと、2045年には総人口1億で高齢化率38.2%の超高齢化社会になる。子育ては誰の責任か。絶対的弱者の子どもを守るのは「保護者」であるが、その保護者も又弱者であるとの観点から、経済的、社会的にも社会全体で支えなければならない。

データによると、働く女性が多いほど出生率が回復しているし、夫の家事育児時間が少ない国は出生数も低い。出生率が伸びている国は、女性が仕事と子育てを両立できるシステムが構築されている。少子化対策が男女共同参画と不可分だとわかる^{ゆえん}所以だ。

社会の意識改革を促すには、女性自らが政策立案に参画することが求められる。第2次男女共同参画基本計画には、2020年までに企業や各種団体の課長級以上

の指導的立場の女性が、30%になるように^{に一まるに一まるさんじゅう}(202030)目標が盛り込まれている。

(責任あるポストに推薦されたら)☑るまない、(取り立てられた人を)☑がまない、

(足を)☑っぱらない、という3つの☑で、連帯を組んで大きな壁に立ち向かい、自分を育て人を育ててほしい。男女共同参画社会では、リーダーシップを発揮する人とその人を支えるチームが必要。一人だけで解決してしまうのではなく、地域社会全体でチームを組んで取り組む意識が大事だ。(N. I)



第1分科会

川内CAP

「あなたには安心して自信を持って自由に生きる権利があるんだよ！」

CAPとは子どもがあらゆる暴力から自分を守るための人権教育プログラム。誰もが安心して自信を持って自由な気持ちで生きる権利がある。その権利をとられそうになった時のために「いやという力」「にげる力」「誰かに相談する力」をつける必要がある。そのためのキーワードが「エンパワーメント」。誰もが本来持っている力を引き出し問題解決の方法として自己の中に力を蓄え積極的な自分を作り出すこと。その妨げとなる女だから、男だからと自分を過小評価してしまうジェンダー(社会的、文化的に形成された性別)に気付くことの大切さへと導いていた。まさに男女共

同参画社会の目指すものと一致した。寸劇による暴力への具体的な対処法にもなるほどと納得したが、進行役をされた女性が自分もエンパワーメントを知り、こうして人前で話すという昔の自分には考えられない力を得たというひとことも印象に残った。(S. N)



第2分科会

NPO法人ピンクリボンかごしま

「乳がんを理解しよう～生涯の健康のために～」

ピンクリボンは、乳がんの早期発見・早期治療を促す



活動を幅広く展開している団体。今回は乳がんという病気を窓口にして、『パートナーが病気

や困難にあったとき何をしたいか』などの意見交換を行った。妻が発病の際「どうしたらいいかわからない」という夫からの相談も多いそう。夫婦でお互いに病気になった場合の具体的な取り決めをしている」という意見には会場から「スゴイ、それはいい」の声。互いに健康面での理解と支援、そして思いやりを持つことの大切さを改めて認識する機会になった。(Y. K)